

平成 31 年 4 月 2 日

IOSCO による行動インサイトの投資者保護への活用に関する 報告書の公表について

証券監督者国際機構 (IOSCO) は、本日、投資家保護の観点から、行動インサイトの投資者保護への活用についての報告書を公表した。

この報告書（「[行動インサイトの投資者保護への活用](#)」）の中では、リテール投資家が投資を決定する際の行動について、規制当局が理解を深めるためのガイダンスを提供している。

本報告書では、行動バイアスの内容及び行動バイアスがリテール投資市場に与える影響について記載しているほか、感情や心理的な経験が投資判断に与える影響について例示している（例えば、経験則がどのように不正確な考え方を導くか、情報の断片的な評価が完全な評価に基づく判断と異なる判断を導くのか、等）。

本報告書では、オンラインインターフェース上でやり取りする場合と、対面や印刷物でやり取りする場合で、個人が異なる判断をする傾向があることも指摘している。

また、本報告書は、当局が、リテール投資家がどのように被害を被るかについて情報収集する際に使用する量的・質的な調査手法についても言及している。これらの手法は、投資家保護や、既存の開示の有効性の評価等に関する規制の設計やその有効性の評価に用いることができる。

本報告書は、行動インサイトを用いた手法が、リテール投資家の十分な情報に基づく意思決定を促す可能性を認める一方で、リテール投資家の保護については十分ではない可能性があることを認識している。従って、リテール投資家の保護をさらに進めるためには、規制当局が、これまで通り投資専門家に対して行動基準を課すとともに、投資商品の販売を規制することが重要である。

(以 上)